

4.計画策定方法

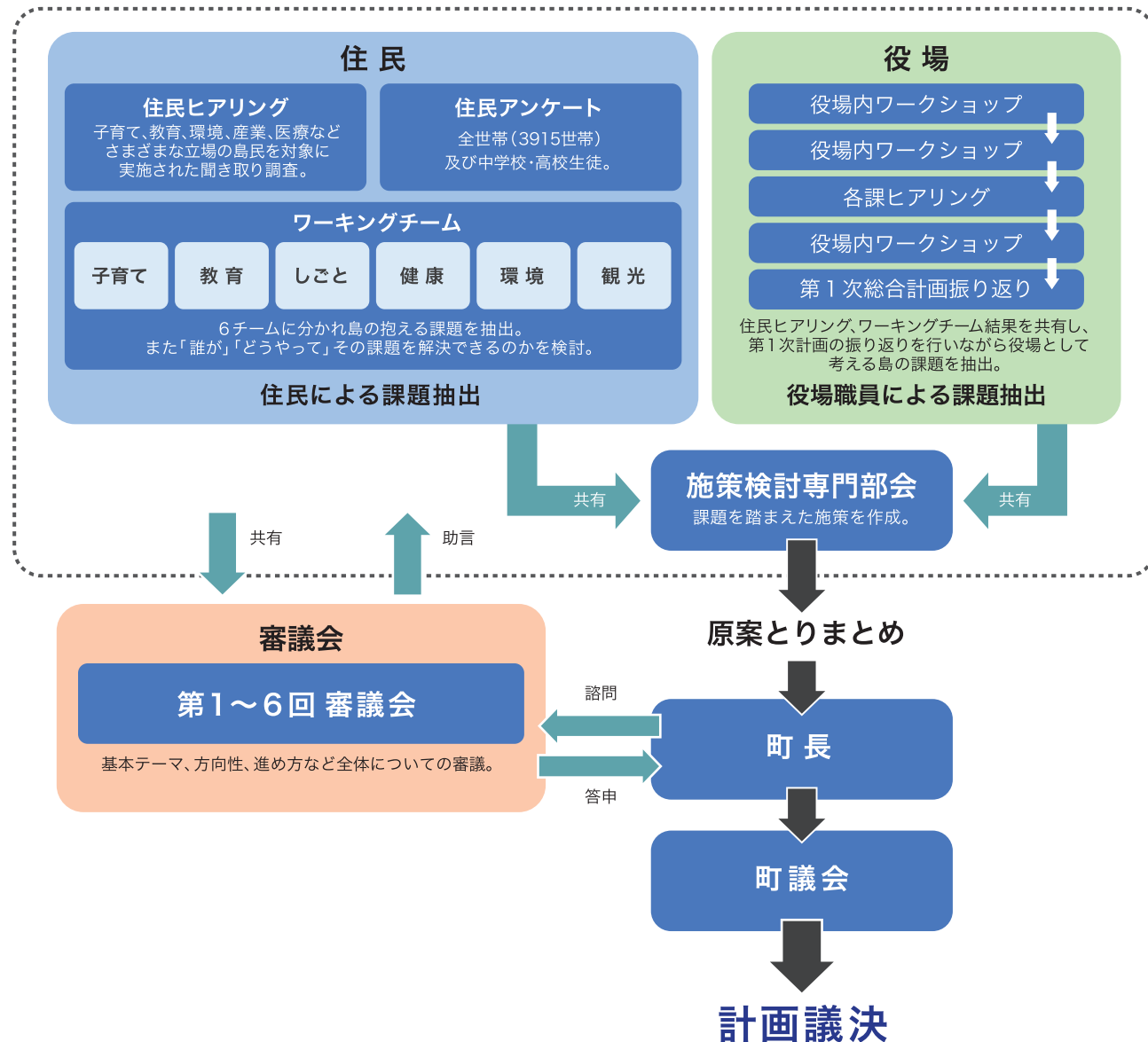
第2次総合計画では、住民の参画と協働が策定作業の基盤であると考え、教育現場、医療現場、町議員、各種団体のほか、組織には属さない子育て中のお母さんたち等も含めて、さまざまな立場の島民へのヒアリングからスタートしました。

全世帯(3,915世帯)へのアンケート調査も実施。また、住民によるワーキングチームも結成され、課題の抽出にあたりました。同時に、それらを解決するために「自分たち住民は何ができるのか」「行政には何ができるのか」「一緒にできることは何か」などを検討しました。

行政も、その声に応えるべく、現行の施策と課題を照らし合わせながら、終了するもの、改善するもの、新たに始めるものを精査しました。

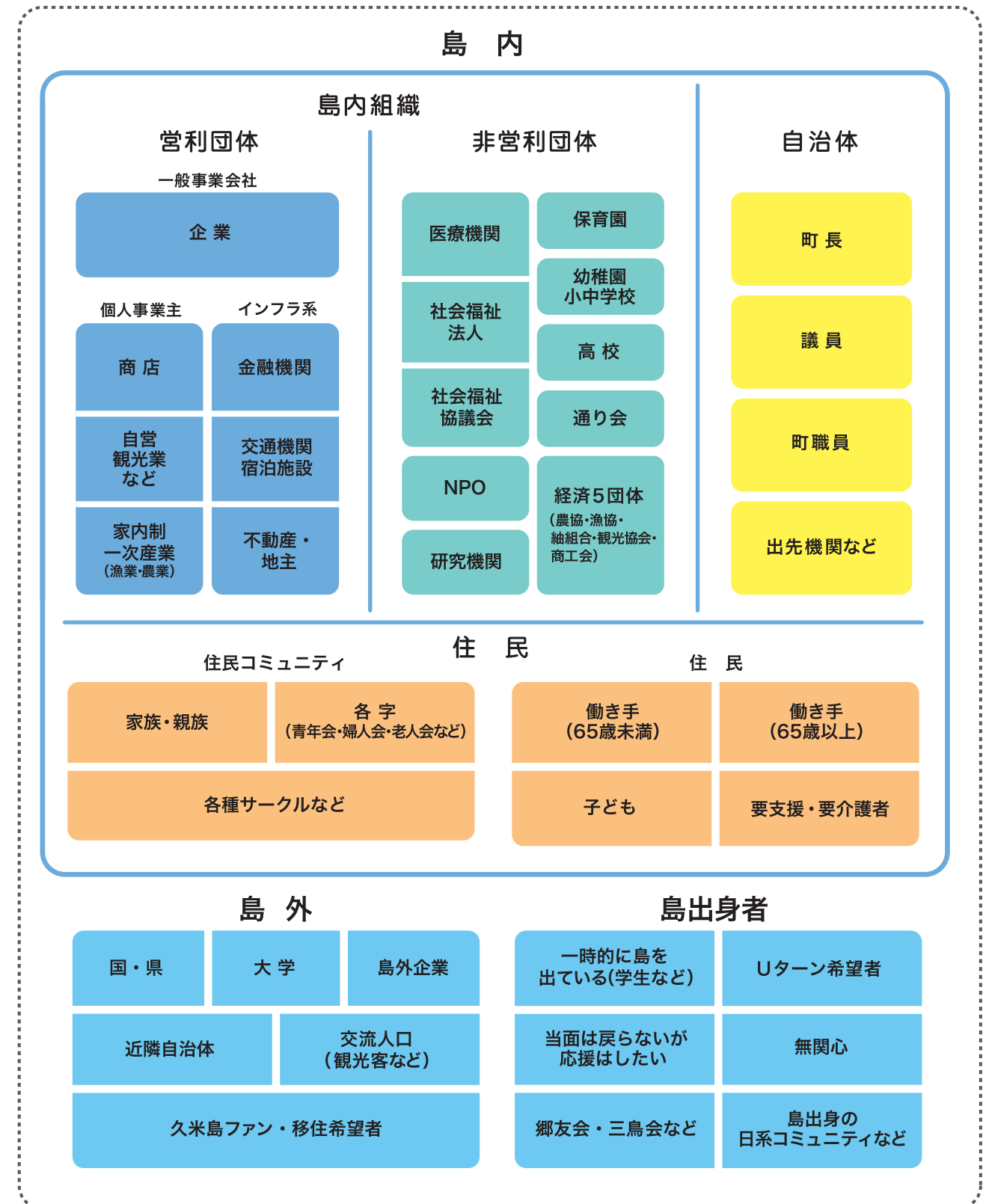
こうしたプロセスは、要所要所で審議会において共有され、方向性や内容など、第2次総合計画全体についての審議が行なわれました。

▶策定手順



この総合計画を実現、実行していくためには、分野を超えて島民が縦横に繋がり、情報共有しながら行動するネットワークづくりが不可欠であるということが、本計画策定プロセスの中で共有されました。

▶久米島町を構成するプレイヤーマップ



5. 島民の抱えている主な課題

「人口減少」に歯止めをかけ、未来への夢を結べる総合計画策定においては、まず現在、島民が抱えている課題を抽出することが不可欠です。

ヒアリングやアンケート、ワーキングチームを通じて明らかになったさまざまに異なる課題を整理するにあたり、「人間が生まれてから死ぬまで、どの世代においても安心安全な暮らしができる島になること」を軸に、ライフステージを7つの段階に分けて、代表的なものを以下のように整理しました。

1. 「生まれる」世代の課題

- ・ 島で出産ができない
- ・ 産前産後のサポート体制が整っていない

2. 「育つ」世代の課題

- ・ 子どもの遊び場がない
- ・ 未就学児をめぐるサポート体制が整っていない
- ・ 糖尿病など子どもの生活習慣病が深刻化している

3. 「学ぶ」世代の課題

- ・ 「確かな学力」を育むための学習支援が不十分なため、基礎学力が低く意欲を失っている
- ・ 発達障がいの子どものための支援員が不足し社会的自立のための支援が充分に行なわれていない
- ・ 高校卒業後の進路と地場産業とのつながりが少ない

4. 「働く」世代の課題

- ・ 子育てと仕事を両立できる職場環境が少ない
- ・ 生きがいを感じる仕事が少ない
- ・ 求人求職情報など仕事関連情報が集約されていない

5. 「暮らす」すべての世代の課題

- ・ 町民の健康状態悪化が深刻（40歳以上の8割が糖尿病及びその予備軍、アルコール、喫煙による健康被害の増大など）
- ・ ゴミのポイ捨てや不法投棄が多い
- ・ 公共施設に、乳児用・介護用のオムツ替えシートやベビーカー、車いす用スロープがない

6. 「老いる」世代の課題

- ・ 介護サポート体制が不十分なため、「島を出る選択」をせざるを得ない高齢者が増えている
- ・ 元気な高齢者の活躍の場が少ない

7. 「次世代」の課題

- ・ 未来に引き継ぐべき自然が破壊されつつある（赤土の流出、海の汚染、久米島ホテルの減少など）
- ・ 外部に依存しなくても暮らしていける安心安全の確保（食糧・エネルギーの自立等）ができていない

これら1～7の課題が、島に暮らし島を守る人々「島人(しまんちゅ)」の充実に関するものだとすれば、加えて、外の世界からの情報や考え方を運んでくる、そして島の情報を外に届けてくれる人々「風人(かじんちゅ)」の視点の必要性も、新たな課題として見えてきます。

そこで8つめの課題として次の課題があげられます。

8. 「島に人を惹きつける」ための課題

- ・ 情報発信力が弱い
- ・ 島らしい景観や文化的な魅力が十分に整備されていない
- ・ 移住希望者に対応する窓口がない

これらの課題はもれなく、町民、行政、専門家が共に解決していかなければならないものばかりですが、同時に未来図を実現していくためには、これまでの分野や立場を超えた新たな連携を創り出し、これまでになかった島づくりの視点からの取り組みに挑戦することも必要です。

